

第10回

家庭に困難な背景を持つ子どもたち



広島大学大学院教授
栗原 慎二

埼玉県立高校教諭を18年務めたあと広島大学へ。教師生活の始まりとともに学校教育相談にかかわる。「普通の学校での、普通の教師による、普通の実践」にこだわり続ける。

家庭に困難な背景を持つ子どもたちのアセスの結果

アセスの特徴の一つとして、個人プロフィールの結果から、家庭の状況を推察できるということがあります。そこで今回は、家庭に何らかの特徴や困難を持つ子どもたちをピックアップし、それがアセスの結果にどのように表れるのかを見てみましょう。

A子(中2)

父・母・本人・弟(小4)の四人家族。
母は躁鬱の病歴あり。弟は自閉症スペクトラム圏内か。

A子曰く、母は支配的で過干渉。自分より弟のほうがかわいいと思っている。

両親が自分のいないところで自分の悪口を言っているのではないかと思い、自宅に録音機を仕掛けたことがある。自分の部屋はなく、夜は、ずっと家族が起きているから、家族が寝ている夜中だけが、自分がゆっくり落ち着ける唯一の時間。担任はしっかりしている生徒と思っていた。

B男(中2)

父・母・姉(高1)・本人・弟(小5)・祖父母の七人家族。

父は仕事柄不在がちで、いてもパソコンをずっとやっている。父子の会話は少ない。母は幼稚園勤務。

学力は高いが、「コミュニケーションをとるのは苦手。自分のことを話したくない」と言う。係の仕事は自分のことだけで、

家に来ると、ひどく怒られた。本人は、そのことに大変不満だが、そのことで母とやり合ったことはない。

食事・洗濯等の本人の身の回りのことは父が担当。懇談会にはいつも父が出席し、担任は母に会ったことはない。両親の関係はよくないようだ。

D男(中2)

父・母・本人・祖父母の五人家族。

父が病氣療養中で、無職。母が生計を支えており、忙しく不在がち。父は、自分の両親(祖父母)との関係がうまくいっておらず、いつも家の中がぎすぎすしている。

本人は、一人っ子で、学校ではもの静か。年度当初、学校での表情は暗かったが、最近、少し明るくなってきたように感じる。

人を手伝ったり配慮することはない。遅刻が多い。小学校時からよくいじめをする。小学校の申し送りに「わがまま」とあった。小学校時、通学バスで弟に弱いものいじめをさせる。弟には暴力的。中学校に入り、特別支援学級の生徒に對していじめをする。消しゴムを隠すような行為もあり、学級では孤立。誰も同じ班や隣の席になりたがらない。

C男(中1)

父・母・本人の三人家族。

おとなしく、からかわれやすい。マイペースで、目立たないいい子という印象。

母が不在がちで、夜、出かけることも多い。母が何をしているのか、どこに行っているのかは知らないと言う。母は、小学校時から、友達を自宅に連れてくることを大変嫌がり、友達が

